

特集 第2弾

誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて

渋谷区自立支援協議会その②～セミナー開催～

2012年12月に待望の渋谷区の協議会が立ち上がり、「第1回渋谷区自立支援協議会(以下協議会)」が開催されました。協議会がスタートすればすべてが変わるというものではありません。協議会の基本を知り、地域福祉をよくするために、自分達はどうのような関わりと行動ができるのか?去る2月22日(金)にセミナーを開催しました。

●どう変える?渋谷の福祉

セミナー「自立支援協議会ってなんだろう?」の会場には、障害のある本人、家族、福祉団体職員を中心に、80名の参加者が訪れました。今回のセミナーは、『NPO ぱれっと』と『NPO 渋谷なかよしぐるーぷ』の有志を中心とした「渋谷の福祉を考える有志の会」主催によるもので、まずは協議会の基本的なことを学び、協議会と渋谷の福祉事情を知ることが目的に企画されました。

●協議会と渋谷の現状について

ゲストスピーカーとして協議会委員4名の方にお越し頂きました。

【協議会委員長 高橋幸三郎氏(東京家政学院大学教授)】：協議会についての基本的な考え方や、他の地域の協議会の特徴、活性化するためのポイントなどを、わかりやすく解説していただきました。中でも「相談支援が基本になっていく中で、困難事例だけでなく、日々の暮らしの中から当事者の声を反映させる仕組みやネットワークをいかに構築できるかが重要」と強調されていました。

次に、渋谷区の福祉現場より現在の状況についてお話しいただきました。

【地域活動支援センターふれあい施設長 青木徹氏】：精神障害分野では平成20年より先行して「自立支援ネットワーク会議」を開催し、障害事例の検討や学習会を通して課題の分析を行なっています。

ワーキンググループで、今後の相談支援について意見交換していますが、精神部門のみの為、今後渋谷全体にどう反映させるかが課題としてあがりました。

【NPO法人渋谷神宮前 ワークセンター ひかわ所長 野崎克己氏】：障害者就労支援の分野より、作業所連絡会加盟団体の資料と、定員を超えた受け入れ、高額家賃が運営を圧迫する状況等、各障害者施設が抱える課題があがりました。

【はあとぴあ相談ステーション所長 東尾雅子氏】：渋谷区障害者相談支援事業の現場より、相談支援に対する認知度が低くイメージが統一されていない現状があがりました。また、個別のニーズを解決するために、社会資源の活用とネットワークのシステムを今後作っていく必要性、渋谷区全体で個別支援計画への動きが進んでいない現状があがりました。

●今後への関心と期待

協議会の立ち上げにより、地域での生活支援を検討する「相談支援部会」と「就労支援部会」が設置されましたが、今はまだ実際に動き出すための準備段階であることが、今回のお話から理解できました。まずは渋谷の現状を知るところからとなりましたが、今後は渋谷の福祉の活性化にむけて私たちに何ができるのか、参加者からも次のセミナー開催が望まれています。 事務局長 菅原睦子

※引き続き、新つうしんにて特集します